

平成 30 年度 第 9 回広島市感染症対策協議会

平成 31 年 1 月 21 日

【日 時】 平成 31 年 1 月 21 日（月）19:00～19:45
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】 坂口 剛正、吉岡 宏治、佐藤 貴、新甲 さなえ、堂面 政俊、増田 裕久、
藤本 三喜夫、安井 耕三、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

(1) インフルエンザの流行状況について（資料 1 P1～11）

平成 31 年第 2 週（1 月 7 日～1 月 13 日）の広島市感染症発生動向調査において、定点当たりのインフルエンザ患者報告数が 27.92 人（注意報基準値：10）となったため、1 月 16 日、市内のインフルエンザ患者数が注意報レベルを超えた旨の広報を行った。なお、広島県下においては、1 月 17 日に「インフルエンザ警報（警報基準値：30）」が発令されている。

平成 31 年第 2 週現在、基幹定点 2 か所におけるインフルエンザ迅速診断キット検査では、A 型 1,556 件、B 型 13 件が検出されており、流行の中心は A 型となっている。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は、1 月 18 日までに 44 件が報告されているが、1 月 10 日以降の報告が 36 件とこの 2 週間で急増している。

今後も流行の更なる拡大が懸念されることから、市民に対し、引き続き、手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防対策を徹底するよう呼びかけていく。

（委員意見）

これから流行の最盛期を迎えると考えられることから、引き続き、感染予防対策について啓発を行ってほしい。

(2) 感染性胃腸炎の流行状況について（資料 1 P12～22）

平成 30 年第 51 週（12 月 17 日～12 月 23 日）の広島県感染症発生動向調査による定点医療機関（72 医療機関）からの感染性胃腸炎の報告患者数が、県西部東保健所管内で警報開始基準値（定点当たり 20）を上回ったことから、広島県は同年 12 月 27 日、「感染性胃腸炎警報」を発令した。

平成 31 年第 2 週現在、本市における感染性胃腸炎患者の報告数は定点あたり 10.83 人と平年並み（過去 5 年平均 9.03 人）で推移しているが、今シーズンの施設等における集団発生事例は 3 件と例年より少ない状況である。

一方、本市におけるノロウイルスが原因と推定される食中毒は 11 月以降 3 件（うち 1 件は患者数が 400 名以上）発生している。国からは感染症の側面だけでなく、食中毒の観点からも予防対策を徹底するよう通知が発出されていることから、食品衛生部局とも連携し、引き続き、市民に対する啓発を行っていく。

（委員意見）

引き続き、感染性胃腸炎の感染予防対策について啓発を行ってほしい。

(3) 平成 31 年度以降の肺炎球菌感染症（高齢者がかかるものに限る。）の定期接種の対応について（資料 1 P23～33）

肺炎球菌感染症（高齢者がかかるものに限る。）の定期の予防接種については、平成 26 年 10 月から、本来の対象である 65 歳の者に加え、平成 26 年時点で 65 歳を超えていた者に対する経過措置として、平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年間については、当該年度に 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳又は 100 歳を迎える者に対し、定期の予防接種を実施してきたところである。

このたび、平成 31 年度以降の定期接種の対象者について、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会において、平成 31 年度から平成 35 年度までの 5 年間も、引き続き、当該年度に 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳又は 100 歳を迎える者を定期接種の対象とすることとされた。

なお、従前どおり、これまでに高齢者肺炎球菌感染症に係る予防接種を受けたことのある者は定期予防接種として受けることはできない。

本市においては、接種率向上のため、引き続き、制度趣旨についての積極的な啓発を行っていく。

(委員意見)

接種率が向上するよう、引き続き、積極的な啓発を行ってほしい。

2 12月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	平成30年12月分	平成31年1月分
		報告12/3~12/30	報告日12/31~1/17現在
2類	結核	13人 (結核12人、潜在性結核1人)	
4類	A型肝炎		1人(1/10)
	E型肝炎	1人(12/10)	
	つつが虫病	2人(12/6、12/13)	
	レジオネラ	4人(12/17、12/17、12/18、12/19)	1人(1/7)
5類	ウイルス性肝炎	1人(12/19)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		1人(1/4)
	急性弛緩性麻痺	1人(12/6)	
	急性脳炎		1人(1/7)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1人(12/12)	1人(1/7)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人(12/13)	1人(1/4)
	後天性免疫不全症候群	1人(12/7)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人(12/13)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	3人(12/26、12/27、12/28)	
	梅毒	3人(12/7、12/12、12/19)	5人(1/7、1/7、1/11、1/15、1/16)
	百日咳	1人(12/20)	2人(1/4、1/4)
風しん	2人(12/7、12/10)	2人(1/4、1/5)	

()は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 平成31年2月18日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：12月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（1月分）

平成31年1月21日

1 患者情報

(1) 概要

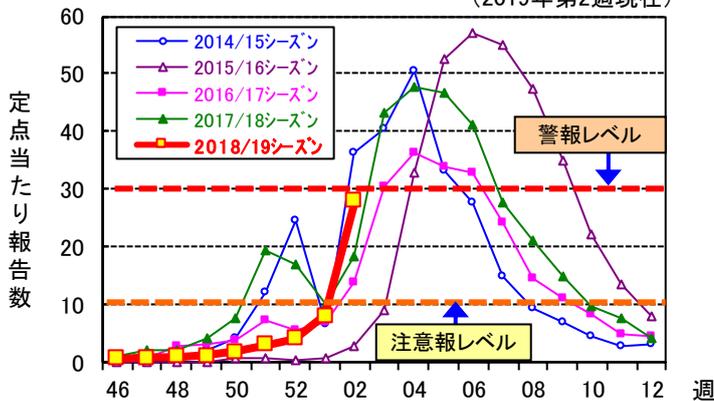
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、12月は2,007人で、前月比1.37とやや増加した。

インフルエンザ、伝染性紅斑は大きく増加、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症は増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、流行性角結膜炎はほぼ横ばい、咽頭結膜熱、突発性発しんはやや減少、手足口病は大きく減少した。

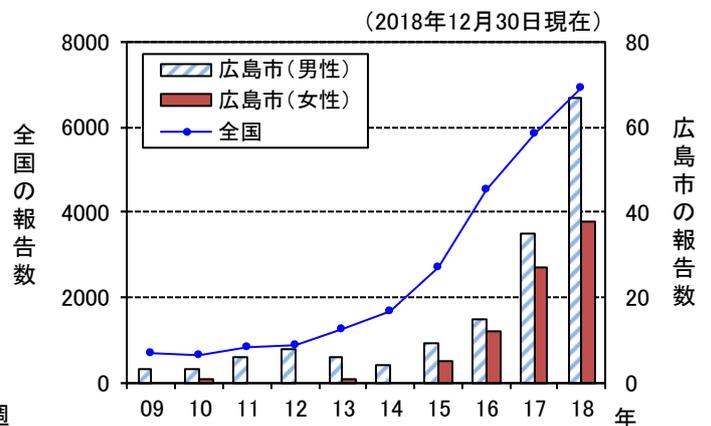
(2) 特記事項

- 広島県は、1月17日にインフルエンザ警報を発令した。本市においても1月に入り患者数が急増し、第2週(1月7日～1月13日)には注意報レベル(定点当たり10.0人)を超える定点当たり27.9人の報告があった。今後も更なる流行の拡大が予測される。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は1月13日までに12件報告されている。健康管理に十分注意し、手洗いの励行、咳エチケットなどインフルエンザ対策を徹底することが重要である。なお、広島市衛生研究所の検査結果では、今シーズンはインフルエンザウイルスA(H1N1)2009型15件、インフルエンザウイルスA(H3)型が5件、インフルエンザウイルスB型(ビクトリア系統)が1件検出されている(1月13日現在)。
- 広島県は、12月27日に感染性胃腸炎警報を発令した。感染性胃腸炎は、11月以降増加傾向で推移しており、しばらくは多い状況が続くと予測される。また、本市において、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が12月に2件報告されており、福祉施設・学校・保育園などの集団生活の場では、流水・石けんによる手洗いを励行し、便・吐物を適切に処理するなど、感染の予防及び拡大防止対策を徹底する必要がある。
- 梅毒の報告数は、2015年以降増加しており、2018年は2017年の約1.7倍となる105件(男性67件、女性38件)の報告があった。20～40代が79.0%を占め、男性では30代、女性では20代が最も多く、女性は男性に比べて若年層での報告が多かった。梅毒に感染したおそれがある方は、早期に医療機関を受診することを勧める。

広島市におけるインフルエンザ定点当たり報告数
(2019年第2週現在)



梅毒の年間報告数の推移
(2018年12月30日現在)



(3) 12月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 13件（患者：12件、潜在性結核：1件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：E型肝炎 1件 つつが虫病 2件 レジオネラ症 4件
- 5類感染症：ウイルス性肝炎 1件 急性弛緩性麻痺 1件 クロイツフェルト・ヤコブ病 1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 後天性免疫不全症候群 1件
侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 侵襲性肺炎球菌感染症 3件
梅毒 3件 百日咳 1件 風しん 2件

(4) 今後の流行予測

- インフルエンザ・・・【流行中】
- 感染性胃腸炎・・・【流行中】

検査情報

12月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数	
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	11 月	4 人	
	インフルエンザウイルス A(H3) 型	11 月	2 人	
	ライノウイルス	11 月	1 人	
感染性胃腸炎	アデノウイルス 5 型	10 月	1 人	
手足口病	エンテロウイルス 71 型	9 月	1 人	
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	9 月	2 人	
無菌性髄膜炎 流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	10 月	1 人	
その他の呼吸器疾患（細気管支炎）	百日咳菌	10 月	1 人	
	（肺炎）	ライノウイルス	11 月	1 人
	（喘息）	ライノウイルス	11 月	1 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	エコーウイルス 11 型	8 月	1 人	
	*1 アデノウイルス 2 型	8 月	1 人	
	*1 エコーウイルス 11 型			
	アデノウイルス 1 型	10 月	1 人	
その他の疾患（不明熱）	RS ウイルス	11 月	1 人	
	*2 エンテロウイルス 68 型	11 月	1 人	
	*2 ライノウイルス			

*1～*2：複数病原体検出例

20人の患者から12種類のウイルス21株及び1種類の細菌1株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型及びライノウイルス各4株、アデノウイルス37型、インフルエンザウイルス A(H3)型及びエコーウイルス11型各2株、RS ウイルス、アデノウイルス1型、同2型、同5型、エンテロウイルス68型、同71型及びムンプスウイルス各1株であった。検出細菌の内訳は、百日咳菌1株であった。

5類感染症定点情報
(平成30年12月解析分)

1. 週報対象(第49週～第52週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↑	372	10.39	流→	10	流行性耳下腺炎		9	0.37	
2	咽頭結膜熱	↙	32	1.34		11	RSウイルス感染症	↗	51	2.13	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇨	310	12.92		12	急性出血性結膜炎		1	0.13	
4	感染性胃腸炎	↗	1,043	43.47	流→	13	流行性角結膜炎	⇨	28	3.51	
5	水痘	⇨	48	2.01		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病	↓	18	0.76		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑	↑	21	0.88		16	マイコプラズマ肺炎		2	0.29	
8	突発性発しん	↙	29	1.21		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		18	0.76		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		3	0.42	

2. 月報対象(12月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↙	29	3.22
2	性器ヘルペスウイルス感染症	⇨	17	1.89
3	尖圭コンジローマ		6	0.67
4	淋菌感染症		14	1.56
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	⇨	19	2.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0.29
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		1	0.14

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	⇨	⇦
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇨	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数(平成30年12月分)

第49週～第52週(12月3日～12月30日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	13	142	1,823	21,850
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	4
	16 細菌性赤痢	-	-	36	268
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	9	101	3,844
	18 腸チフス	-	1	1	35
	19 パラチフス	-	-	1	23
	20 E型肝炎	1	5	28	442
四類	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	37	925
	23 エキノコックス症	-	-	-	12
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	6
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	6
	28 キャサナル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	3
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	2
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	77
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	1
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	4
	40 つつが虫病	2	10	150	455
	41 デング熱	-	2	16	201
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	5	9	303
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	3
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	2
	55 マラリア	-	-	3	50
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	13
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	2
	61 レジオネラ症	4	39	121	2,130
	62 レプトスピラ症	-	1	1	31
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	11	74	838
	65 ウイルス性肝炎	1	6	33	269
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	15	206	2,253
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	1	2	19	139
	68 急性脳炎	-	5	63	657
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	25
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	1	4	25	219
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	60	687
	72 後天性免疫不全症候群	1	9	115	1,292
	73 ジアルジア症	-	-	2	68
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	48	483
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	5	37
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	3	16	342	3,299
	77 水痘(入院例に限る。)	-	2	50	461
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	3	105	547	6,923
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	11	178
	81 破傷風	-	2	10	130
	82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	7	79
	84 百日咳	1	61	1,587	11,947
	85 風しん	2	16	463	2,917
	86 麻しん	-	-	15	282
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	1	24